

令和 4 年度

志手原校区地域づくり協議会定期総会

(総会議案)

- ①報告第 1 号 令和 3 年度事業報告
- ②報告第 2 号 令和 3 年度会計決算報告及び同監査報告
- ③議案第 1 号 令和 4 年度役員体制(案)
- ④議案第 2 号 令和 4 年度事業計画(案)
- ⑤議案第 3 号 令和 4 年度会計予算(案)

志手原校区地域づくり協議会事務局

しではらつながり広場 ☎079-556-7119

令和 3 年度 事業報告

令和 3 年度は前年度に続きコロナ禍による制約の中での活動となり、多くの住民の皆さんが集いふれあう催しなどが殆ど実施出来ないことから、住民同士のつながりが薄れ今後の活動にも少なからず影響が生じるのではと心配するところでありました。

こうした厳しい状況下ではありますが、感染対策を徹底しながら実施可能なものから取組を進めてまいりました。

特に、今後の本格的な活動に備えて、必要なしくみの検討や実施に向けた計画づくりをはじめ、つながり広場を活用した小規模な交流やふれあいの催し、上野台中学校との交流など、各事業部会における活動を中心に取組みました。

今年度の主な活動は次のとおりです。

1. 地域づくり計画等住民啓発活動

① 広報活動の充実

・地域づくり協議会だより(1 回)

令和 3 年度の活動内容など

・かわら版しではら(5 回)

協議会からのお知らせやしではらつながり広場情報など

② 地区や構成団体への説明会

新型コロナウイルス感染拡大により 2~3 地区のみ実施

2. 計画実現に向けた具体の取組(各事業部会)

① 第 1 事業部会 (誰もが安心して暮らせる温かい地域づくり)

*誰もが気軽に立ち寄れる居場所を「しではらつながり広場」に開設し、つながりカフェや読み聞かせなどを実施すると共に、クリスマスフェアやささやか野菜市などを催し、住民同士のつながりを深める活動を展開した。

*高齢者等の健康づくりに向けて、つながり広場でのいきいき百歳体操や健康教室を開催した。また地域のサロン活動等への普及のため百歳体操備品を購入し貸出を行う。

*三輪北部・小野・高平高齢者支援センターと連携して生活相談日を開設した。(毎月第 1 木曜日と第 3 土曜日 13 時~15 時)

*高齢者に優しい地域交通の在り方について市交通のまちづくり課と協議。高齢者等の外出サポートの視点から協議を継続。

*地域防災マップの作成に向けて、12 月 14 日(土)有馬富士区と尼寺区において事前研修と街歩きを実施。

図化作業後市危機管理課においてマップを作製する。

②第2事業部会（住民同士で造る元気な地域づくり）

- *仮称「志手原ふれあい浴衣まつり」は新型コロナウイルス感染拡大により中止となる。
代替えの多世代のふれあいイベントとして多世代交流グランドゴルフ大会を開催する。
(11月13日(土)13時～志手原小学校運動場 58名の参加)
- *志手原校園地域交流事業は新型コロナウイルス感染拡大により全て中止。
教育環境の整備としてパソコンデスクの購入費の一部を助成した。
- *上野台中学校連携事業は、虹プロジェクト活動支援や、「しではらつながり広場」のアート看板を生徒会の皆さんにお願いし作成する。完成を祝い11月26日お披露目式を実施。
- *地域情報チラシ「かわら版しではら」を発刊し、つながり広場の行事や協議会の取組みなど地域情報の共有に努める。
- *志手原人材バンクをつながり広場のふれあい活動や地域のサロン等に活かしていくため、活動プログラムを作成する。

③第3事業部会（魅力を生かした自慢できる地域づくり）

- *昨年から引き続き、兵庫県地域再生アドバイザー派遣制度を活用して「地域農業を考える会」を開催し地域農業活性化計画をまとめる。(別掲)
 - ・アドバイザー 神戸大学中塚雅也教授
 - ・考える会6回 コア会議3回 研修会2回(先進地視察含む)
 - ・地域農業魅力発信webサイトの作成
- *上野台中学校虹プロジェクト活動支援として、フジバカマ苗木を校区内戸数の半数に配布すると共に志手原校園全児童に配布した。
また、昨年に引き続き上野台中学校のOBに匂い袋を贈る取り組みを支援した。

3. その他

①しではらつながり広場の運営等

- ・開設日 週3日(火 木 土) 13時～16時
- ・事務局員の配置(上記開設日)
- ・事務所床カーペットの整備
- ・アート看板の設置(看板絵画は上野台中学校生徒会に依頼)

②資源ごみ回収事業

- ・志手原小学校PTAとの共同事業
- ・回収日(偶数月 第1日曜日)
- ・収入額 63,530円

③会議等

- ・定期総会 新型コロナウイルス感染防止のため書面決議(令和3年5月)
- ・三役会 5回
- ・役員会(事業部会正副会長合同会議含む) 4回
- ・事業部会(4事業部会合計) 7回

地域農業活性化計画（集落連携計画）

（R4・2月）

（はじめに）

日本農業は、少子高齢化人口減少時代を迎え、米の消費の減少や担い手不足により、山間地農業者は30年後には半分程度まで減少すると予想されています。

志手原校区においても農家の後継者が少なくなり、不耕作農地が増え環境や景観にも悪影響が生じるのではないかと危惧されるどころです。

こうした厳しい中で、志手原校区地域づくり協議会では、「元気な地域づくりは地域農業の活性化から」をテーマに、農家の主体的な取組に合わせ、ニュータウン地域の消費者や非農家を巻き込んだ地域ぐるみでの取組みについて、「地域農業を考える会」を立ち上げ検討を進めてまいりました。

委員には若い新規農業者や農家、JA関係者、消費者など様々な方にお話しし、違った立場からこれからの地域農業がめだす方向について議論を頂き、今すぐ取り組めるもの、中長期的に具体化していくものに区分し下記の通り計画をまとめました。

1. 志手原校区地域の現状と課題

（現状）

- ・米作を中心とした兼業農家が大半である。
（校区内9地区のうち農村集落は6地区・農家戸数 約130戸 面積 約157ha）
- ・地形が悪く小區画田や変形田が多い。鹿や猪による被害が多である。
- ・高齢化が進む一方後継者もない農家が多く遊休農地が増えている。
- ・集団化共同化が進んでいない。
- ・地域を代表する特産品がない。
- ・若い新規就農者が増えつつある。

（課題）

- ・多様な担い手の確保が必要である。
- ・米価の下落による稲作農家の離農が進む。
- ・新規就農者の招致と育成 受入れ体制のしくみづくり。
- ・集団化による規模の拡大や委託（所有から利用へ）の推進。
- ・農の魅力発信 消費者とのつながり 消費ニーズの変化への対応。
- ・鳥獣被害への対策。

2. めざす方向

○地域の強みを生かし、交流で守る魅力ある地域農業を創造する。

- ・消費者や非農家との交流連携を進め、農体験等を通じて農の魅力を発信する。

- ・農業ボランティアから担い手へとつないでいくしくみを考える。
- ・集団化（人農地プランなど）の推進。

○若い就農者や新しい時代の波（働き方や暮らしなど）に即した農業従事者の確保。

- ・若い就農者や世代層に応じた多様な就農者を受け入れる支援体制やしくみづくり。
- ・志手原ブランドづくり。（水稲から園芸作物への転換）

3. 具体の行動計画（実行計画）

初期段階の取組として、消費者（非農家）と農家の交流を柱に、様々な交流機会を通じて農の魅力や地域の良さを伝え、消費者や非農家とのつながりを深めていく。

こうした消費者や非農家との交流活動を通じて、地域農業の側面的な担い手となる支援者づくりにつなげるしくみを検討する。

更に取り組み状況を見ながら、中期段階には地場農産物の販売促進や農業ボランティアグループの立ち上げなど、具体の農業支援策の検討を進め可能なものから実践に繋げていく。

長期的には、農地の保全と地域農業を持続する受け皿として、集落営農や法人組織の立ち上げをめざす。

(ア) 初期段階の取組（3年以内）

① 農業者と消費者の交流事業（農の魅力体験）

- ・植え付けや収穫体験の実施
- ・食育や収穫祭など地域農業の魅力を伝えるイベントの開催
- ・体験実習田の設置（定期的な野菜作り教室の開催や栽培実習）

② 虹プロジェクト交流イベント

- ・休耕田を活用した環境啓発拠点田づくりへの呼びかけ（フジバカマの植栽）
- ・アサギマダラを見る会を開催し、地域の魅力発信や環境啓発を進める

③ 農業ボランティアグループ立ち上げに向けた農作業体験研修

- ・農業研修会の開催（草刈り機の操作研修など）
- ・農業支援体験活動（草刈り作業 収穫作業 出荷作業など）

④ 農福連携の推進

- ・農家の多様な担い手として地域の福祉施設との連携を推進する

⑤ 地域農業魅力発信

- ・ウェブサイトの運営
- ・協議会ホームページや広報誌の活用

⑥ 農家等への啓発活動

- ・各地区農会長や農業委員更には地域農業に関心のある農業者を対象に「地域農業活性化計画」の周知と、計画の実現に向けた話し合いを進め実践に繋げる。
- ・全ての農家を対象に計画の周知と、将来の地域農業の在り方についてアンケート調査を実施する。

(イ) 中期段階の取組 (3~5年以内)

- ①地産農産物の販路拡大に向けた調査研究
 - ・農産物の販売実態調査等農家ニーズの把握
 - ・しではら野菜宅配サービス等新しい販路の開発
- ②多様な担い手の確保に向けた仕組みづくり
 - ・農業ボランティアグループの立ち上げ（草刈り隊など）
- ③新規就農者受け入れ支援（相談支援）
 - ・農家や集落と新規就農者をつなぐプラットフォームの設置に向けた農家との連携

(ウ) 長期的に検討する事項 (6年以降)

- ①地域環境の保全と農地を守る組織づくり
 - ・農地の保全と地域農業を守るための受け皿として、集落営農や法人化組織の立上げに向けた取り組みを支援する。
- ②しではら農ブランドづくり
 - ・地域の特徴を生かした農産物や加工品などの開発に向けて、JA など関係機関と連携しながら研究試行する。
- ③地場野菜販売所の開設
 - ・志手原つながり広場を活用した朝市販売の定着に向けた支援。
 - ・ゆりのきマルシェなどニュータウンでの販売や、県立有馬富士公園での販売に向けた仕組みづくり。

4. 計画の実行に向けた組織体制

現行の「地域農業を考える会」は解散し、計画の実行組織として仮称「しではら農魅力づくり実行委員会」を第3事業部会に設ける。

○目的

初期段階の取組項目の細部の検討及び実施、並びに中期段階の取組に向けた調査研究を進める

○委員構成

- | | |
|-----------|------|
| ・第3事業部会より | 2名 |
| ・考える会より | 2~3名 |
| ・農家から | 2~3名 |
| ・消費者から | 2~3名 |

令和3年度 会計決算報告

「収入の部」

(単位 円)

費目	令和3年度予算額		令和3年度決算額		備 考
	交付金	その他	交付金	その他	
前年度繰越金		787,437		787,437	
地域交付金	1,989,600		1,990,000		三田市
団体分担金		364,100		365,750	校区665戸×550円
資源ごみ回収		84,000		149,520	PTA分の奨励費も含む
野菜販売		15,000		1,200	つながり広場野菜販売など
県補助金				762,000	「がんばる地域」応援事業補助金
市補助金				59,831	住民交流促進事業補助金 (Gゴルフ)
自販機				43,391	つながり広場前自販機
その他				35,610	いちご自販機管理 事務機器廃棄
雑収入		12		17	貯金利息
合計	1,989,600	1,250,549	1,990,000	2,204,756	

「支出の部」

(単位 円)

費目	令和3年度予算額		令和3年度決算額		備 考
	交付金	その他	交付金	その他	
印刷製本費	152,000		154,025		広報誌 コピー使用料
光熱水費	162,000		168,753		事務所水道、電気
保険料	20,000		18,601		労災 イベント 火災
借り上げ料	100,000		0		
食糧費	10,000		4,217		まち歩きお茶 視察先手土産
報償費			15,000		地域農業考える会アドバイザー料
委託料	100,000		82,000		HP管理費
団体分担金		231,700		232,750	防犯協会、青少協、スポーツ21の会費
賃金	777,600		422,400		事務給与
通信運搬費	100,000		106,060		切手 はがき 郵送料 NTT利用
旅費	6,000		0		
リース料	162,000		162,000		コピー機
賃貸料	132,000		132,000		事務所家賃
改装費	50,000		69,190	43,142	事務所カーペット材料、施工費
手数料	5,500		0		
備品購入費	50,000		25,960		百歳体操椅子
イベント費	112,500	100,000	66,000	45,000	看板製作設置 謝礼 (上野台中へ)
消耗品費	50,000	72,000	72,650	7,000	事務用品他 ふれあい活動の写真掲示
市補助金事業				59,831	多世代交流ランドゴルフ大会経費
県補助金事業				762,040	地域農業を考える会の活動経費
その他の事業				85,990	小学校にPC機購入 資源ごみ奨励費PTA分
計	1,989,600	403,700	1,498,856	1,235,753	
繰越金		846,849		969,003	自己資金として次年度に繰越
市に返還			491,144		
合計	1,989,600	1,250,549	1,990,000	2,204,756	v

決算額合計 交付金事業 収入額1,990,000円－支出額1,498,856円＝491,144円 (市返還金)
 その他事業 収入額2,204,756円－支出額1,235,753円＝969,003円 (翌年度繰越金)

令和3年度 会計監査報告

令和4年4月9日(土) つながり広場において、令和3年度志手原校区地域づくり協議会の会計監査を実施した結果、諸帳簿並びに証拠書類は正確かつ適正に処理されていることを認めます。

令和4年4月9日

監査 井上 久雄 ⑩

監査 大前 新 ⑩

令和4年度 役員体制(案)

役職名	氏名	所属団体等	備考
会長	西田 孝夫	元志手原校区区長会	再任
副会長	小西 澄雄	元志手原校区区長会	再任 役職変更
副会長	宮口 美幸	元民生委員・児童委員	再任
事務局長 兼会計	小前 聡	防犯協会三輪北支部	再任
幹事	本田 頌二	志手原校区老人クラブ連絡会	再任
幹事	西本 均	元志手原校区区長会	
幹事	谷口 信子	民生委員・児童委員	再任
幹事	安達 輝起	前志手原校園 PTA	
幹事	野田 祥智	上野台中 PTA	
幹事	堤 保治	上野台中学校区青少年健全育成協議会	再任
幹事	長田美佐江	生活支援ボランティアグループ すけっと志手原	
幹事	稲木 弥生	健康推進委員	再任
監査役	小坂 悦郎	志手原校区区長会会長	
監査役	井上 久雄	志手原校区老人クラブ連合会	再任

令和 4 年度事業計画（案）

志手原校区地域づくり計画の実現に向けた活動も 3 年目を迎えます。

過去2年間はコロナ禍での活動となりましたが、令和4年度においても今の状態が続くものと予想されます。

こうした中で、令和4年度の取組につきましては、昨年からの活動の継続と共に地域づくり計画の実現に向けた新たな取り組みとして、小地域サロン活動を中心とした日々の暮らしサポートや子育て支援、志手原人材バンクの活用、地域農業活性化に向けた消費者との連携事業などを進めます。

様々な活動が遅れていますが、3回目のワクチン接種が進みコロナ感染が安定し早く終息することに期待をしながら、感染対策を徹底して活動を進めてまいります。

具体的取組については以下の通りです。

1. 各事業部会における具体的取組

①第 1 事業部会（誰もが安心して暮らせる温かい地域づくり）

*高齢者等の暮らしサポート

- ・各地区の小規模サロン活動が身近な高齢者等の総合サポート窓口(安否確認や引きこもり防止など)となるよう、サロン世話人交流会を開催し情報交換や研修等を進める。
- ・引き続きつながり広場を活用して、生活相談、多世代交流、つながる機会づくりを進めると共に、広場の活動を小規模サロン活動につなげていく。
- ・地域交通の在り方については、志手原校区の地域交通の状況やニーズから、高齢者等の外出困窮者を対象とした外出支援とし、その受け皿としてボランティアグループ「すけっと志手原」の持続可能な活動体制の検討を進める。

*高齢者等の健康づくりとして、つながり広場を活用した健康教室やいきいき百歳体操を行うと共に、こうした活動を小規模サロン活動へ広める。

*三輪地区ふれあい活動推進協議会への参画とふれあい活動の推進。

*子育て支援の一つとして、地域食堂の開設に向けた検討を進める。

*昨年に引き続き、地域版防災マップの作成を 3 地区(成谷区 砥石川区 香下区)で実施する。

②第 2 事業部会（住民同士で創る元気な地域づくり）

*志手原人材バンクの充実と活用

- ・バンク登録者を増やすための啓発活動を進める。
- ・登録者の活動の場として、つながり広場のつながる機会づくり(趣味の会 音楽 菓子作りなど)の開催、更にこうした活動を小規模サロン活動に広めるためのしくみづくりを検討する。

*地域で育む志手原っ子づくり

- ・志手原小学校との交流事業は、コロナ感染状況を見極めながら老人クラブ連絡会を中心に「田植え」や「稲刈り」体験をはじめ、可能な地域交流事業を学校と調整の上進めると共に、教育環境の

整備支援についても可能な範囲で支援する。

- ・上野台中学校との交流事業は、生徒会を中心に「虹プロジェクト」の活動支援や、様々な地域活動に参加を呼びかけ若人のふるさと意識を高めていく。
- ・上野台中学校区青少年健全育成協議会との連携。

*多世代交流イベントの開催

- ・コロナ感染状況を見極めながら、(仮称)志手原ふれあい浴衣まつりを開催する。

(7月下旬又は8月上旬ごろ 志手原小学校にて ミニコンサート他)

※予備費対応

- ・昨年に続き多世代交流グランドゴルフ大会を実施する。
- *身近な情報発信として「かわら版志手原」の発行を拡充する。(毎月)
- *しではらつながり広場の開所日を、週3日から週4日に拡大する。
(毎週 火 木 土 13時~16時 から 毎週 火 水 木 土 13時~16時に変更)

③第3事業部会 (魅力を生かした自慢できる地域づくり)

*地域農業の活性化に向けた取組

- ・「地域農業活性化計画」の具体化に向けて、仮称「しではら農魅力づくり実行委員会」を本事業部会に設置する。地域農業を考える会は解散する。
- ・「しではら農魅力づくり実行委員会」の委員構成は、本事業部会委員や地域農業を考える会委員、農業者、消費者、等幅広い分野から選出する。
- ・今年度の主な取組は
 - ①野菜の植付や収穫祭等を開催し、農家と消費者の交流を通じて農の魅力を発信する。
 - ②農作業(草刈作業)体験研修を開催し、農業の担い手となるボランティアの育成を進める。
 - ③地域農業の担い手の一つとして地域の福祉施設との連携を深める。
 - ④webサイトを活用し地域農業の魅力発信を推進する。

*虹プロジェクトの支援とふるさとの魅力づくり

- ・引き続き上野台中学校虹プロジェクト活動支援を進める。
 - ①フジバカマの苗木配付や成人の日の取組支援
 - ②校区内におけるアサギマダラの飛来状況調査
- ・コープこうべ環境基金助成事業を活用した「アサギマダラが飛び交う郷づくり」の実施。
(休耕田を活用した体験観賞学習拠点づくりや、これらを進めるボランティアグループ「アサギマダラの会」立ち上げ準備)

*神社、仏閣、景勝地、伝統文化など、志手原いいとこ再発見マップの作成に向けた調査を進める。

2. その他

①資源ごみ回収事業(志手原校園 PTA と共同)

②会議等

三役会 役員会 合同役員会(役員・正副事業部会長) 事業部会

令和4年度 会計予算（案）

「収入の部」

(単位 円)

費目	令和4年度予算額		前年度決算額		備 考
	交付金	その他	交付金	その他	
前年度繰越金		969,003		787,437	
地域交付金	1,980,100		1,990,000		三田市
※1 団体分担金		300,600		365,750	校区668戸×450円
資源ごみ回収		110,000		149,520	
野菜販売		15,000		1,200	つながり広場での販売
県補助金		290,000		762,000	地域農業活性化事業(580,500円×1/2)
市補助金				59,831	
自販機		40,000		43,391	
その他				35,610	
雑収入		17		17	貯金利息
合計	1,980,100	1,724,620	1,990,000	2,204,756	

※1 団体分担金の内訳(青少協150円、防犯協会100円、スポーツ21 100円、ふれあい活動100円)

「支出の部」

(単位 円)

費目	令和4年度予算額		前年度決算額		備 考
	交付金	その他	交付金	その他	
印刷製本費	155,000		154,025		広報誌 コピー使用料
光熱水費	180,000		168,753		事務所水道、電気
保険料	20,000		18,601		労災 イベント 火災
借り上げ料	0				
食糧費	10,000		4,217		会議、まち歩きお茶
報償費	0		15,000		
委託料	100,000		82,000		HP管理費
団体分担金		233,800		232,750	防犯 青少協会 スポーツ21
賃金	669,600		422,400		事務 930×3h×週5日×4週×12月
通信運搬費	100,000		106,060		切手 はがき 郵送料 NTT利用
旅費	6,000				労基署など
リース料	162,000		162,000		コピー機
賃貸料	132,000		132,000		事務所家賃
改装費	70,000	50,000	69,190	43,142	つながり広場2階など
手数料	5,500				司法書士など相談料
備品購入費	20,000	30,000	25,960		つながり広場2階など
イベント費	20,000	50,000	66,000	45,000	グランドゴルフ他
消耗品費	30,000	100,000	72,650	7,000	事務用品 フジバカマ栽培
市補助金事業				59,831	
県補助金事業	250,000	330,500		762,040	※2 地域農業活性化事業に係る経費
その他の事業				85,990	
予備費	50,000	150,000			イベントや活動に備えて
計	1,980,100	944,300	1,498,856	1,235,753	
繰越金		780,320		969,003	
市に返還			491,144		
合計	1,980,100	1,724,620	1,990,000	2,204,756	

※2 地域農業活性化事業の経費(体験と交流、農の魅力発信)

アドバイザー料(大学教授)、農の魅力発信動画作成、農業研修や体験等の費用他